

博物館へ出かけよう

岐阜県博物館友の会 副会長

高岡 保子



美濃市は美濃和紙で栄えた町です。

江戸時代に富裕な商人が、防火壁として「うだつ」を上げ、時代が経つにつれ、華美で立派なものになり、競つて「うだつ」を上げるようになりました。「うだつ」を上げるには莫大なお金がかかることから、「うだつ」は富の象徴になり、「うだつが上がる、上がらない」という言葉が今でも使われています。

その古い町並には、十九棟の「うだつ」が残っており、「国の重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。私は、この町で「町並案内ボランティア」をしており、観光客の方は勿論、社会見学の小・中・高・大学生に一時から二時間ほどで、主に十人以上の団体の方を案内しております。

ある日、小学四年生の女の子が見学の終わり頃に、「まだ、帰りたくない。もっといたい」と言ってくれました。又、ある男の子はバスで帰る間際に、「キラキラとした目で、「親と一緒にまた見に来ます」と言いながら、握手をしに来てくれたこともありました。

ボランティア活動をしている者としては嬉しい限りです。

時々、観光客の方や生徒を引率して来られた先生から、「どうして、ボランティアをされているのですか」と尋ねられることがあります。そこで、「私は歴史が好きなので、少しでもお役に立てればと思い、ボランティア活動をしています」と話しています。

私が歴史を好きになったのは、歴史好きな父が、私を小学生の頃から、いろいろな遺跡に連れて行ってくれ、また昔の話もよくしてくれました。その影響もあり、歴史が好きになり、もっと、勉強をしたいと思い、大学は歴史科に進み、古代史研究会に入り、「続日本紀」を講読し、夏休みには、みんなで奈良のお寺などで合宿をし、明日香村の石舞台古墳や石造物などを見て回り、いにしえに思いを馳せたものです。又、東京・上野にある「国立科学博物館」等の特別展や常設展をよく見学し、博物館の楽しさを知り、「歴史とは、過去を知り、現在を考え、未来を思う」ということを学びました。

美濃の町並を見学に訪れた小学生が帰る時には、「皆さんが住んでいる町にも歴史がありますから、図書館や博物館へ出かけて勉強をして下さいね」と声を掛けるようにしています。

岐阜県は、日本の真ん中にあり、自然も豊かで、変化に富み、有史以前から人々が住み、それぞれの時代に中央の政治と関わり、壬申や承久の乱、関ヶ原の戦いの場になった歴史があります。岐阜県博物館では、特別展や企画展、けんぱく教室や講演会などいろいろな催し物が、工夫を凝らして開催されていますので、是非、出かけようと思っています。



令和5年度特別展

「出かけよう！0→3,000mの旅ー植物が彩る物語ー」

岐阜県博物館 学芸部 自然係 武藤正樹

岐阜県博物館では、令和5年度の特別展として「出かけよう！0→3,000mの旅ー植物が彩る物語ー」を開催します。

岐阜県は、木曾三川が流入する海拔0mの濃尾平野から標高3,000mを超える飛騨山脈まであります。3,000mもの標高差により、地域によって気候や地形に大きな差が生じ、そこには多種多様な動植物を見ることができます。岐阜県で見られる植生は、暖温帯から寒帯までに達し、水平方向に約3,000km北方へ移動する旅をしたことと同じになります。

今回の特別展では、海拔0mから標高3,000mまでの旅路を巡りながら、植物を中心とした岐阜県の豊かな自然について紹介します。変化に富んだ自然の宝箱を開き、魅力ある自然と触れ合う旅に出かけましょう。

1 会期・期間・休館日

- ・ 令和5年9月15日(金)～12月3日(日)
- ・ 9～10月 9:00～16:30
- 11～12月 9:30～16:30
- ・ 休館日 月曜日
- 9月18日(月・祝)、10月9日(月・祝)は開館、
- 9月19日(火)、10月10日(火)休館



オニバス

2 会場

岐阜県博物館 本館4階 特別展示室

3 入館料

一般600(520)円、大学生300(200)円、
高校生以下 無料
※但し()内は20名以上の団体料金

4 関連事業

・ 講演会

令和5年10月8日(日)13:30～15:00

「牧野富太郎の生涯 草木とともに」

講師：田中純子氏

(練馬区立牧野記念庭園 学芸員)

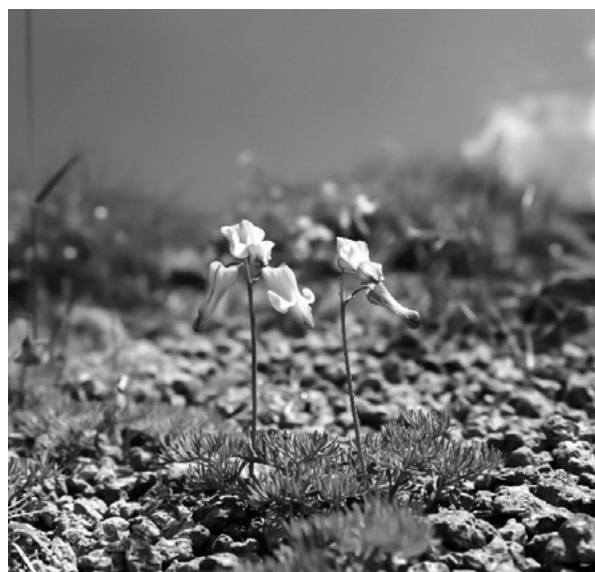
令和5年11月5日(日)13:30～15:00

「きのこの不思議」

講師：吹春俊光氏

(千葉県立中央博物館 上席研究員・学芸員)

・ 担当者によるギャラリートーク



コマクサ

研究紹介

「植物化石の命名について」

岐阜県博物館 学芸部 高津 翔平

岐阜県博物館では、特別展「出かけよう！0→3,000 mの旅ー植物が彩る物語ー」が令和5年9月15日から12月3日にかけて開催されます。これは主に岐阜県に分布する現生植物をテーマにした展示です。一方で、岐阜県北部には中生代中期ジュラ紀から前期白亜紀にかけて堆積した手取層群が広く分布しており、特に同層群からは前期白亜紀の豊富な陸上植物化石が見つっています。

植物化石の学名は、4年ごとに開催される国際植物学会議(IBC: International Botanical Congress)の命名部会のもと、6年ごとに採択される「国際藻類・菌類・植物命名規約」という基準に則り、学術誌で公表することで命名されます。

2011年に採択されたメルボルン規約では、「化石分類群(fossil-taxon)」という用語が定義されました。この化石分類群とは、化石標本をもとにした植物の分類群(※珪藻類を除く)を意味します。また、「1個の単一の生物分類群あるいは1個の単体の個体であったかもしれないものの異なる部分、異なる生活史の諸段階、または異なる保存状態を表す化石分類群に、別々の学名の使用が許可される」ことも規定されました。植物化石の場合、根や茎、枝、葉、花、種子などがすべて揃った状態で見つかることは稀です。そのため、植物が1個体まるまる化石として見つからなくても、葉の部分だけや花の部分だけ、種子だけなど、見つかった一部分の化石だけでも学名を命名することができると定めたものです。



岐阜県高山市荘川町で見つかった前期白亜紀のシダ植物化石「オニキオプシス*Onychiopsis elongata*」

岐阜県博物館・岐阜大学・名古屋大学博物館連携企画展

「おもしろい骨のはなし ーしらべる・つくる・のこすー」

岐阜県博物館 学芸部 説田 健一

動物の骨に関する企画展を岐阜大学図書館で10月23日(月)から12月6日(水)まで開催します。今回は、岐阜県博物館、岐阜大学、名古屋大学博物館で行われている骨に関わる研究や資料収集活動を、しらべる、つくる、のこすというテーマで紹介します。

(1) しらべる

- ・動物の生態は骨のカタチにあらわれる
- ・ペルーガの頭の中身をCTやMRIで見る
- ・骨に残る記録からキリンの栄養と健康を考える
- ・3Dスキャナ型三次元測定機を用いた動物計測
- ・ツキノワグマの歯から年齢を調べて野生動物管理に活かす
- ・乗鞍岳で発生したツキノワグマによる人身事故
- ・骨から探る昔の人々の生活や文化

(2) つくる

- ・動物園の遺体を教材としてのこす・活かす
- ・サポーターグループ ダチョウ組の活動
- ・頭骨のレプリカを印刷する

(3) のこす

- ・未来の学生教育・研究のためのアーカイブ標本
- ・戦前の学校教育で使われた骨格標本
- ・漂着したマッコウクジラを骨にする

会場：岐阜大学図書館2階エントランスホール
(岐阜市柳戸1-1)

入館料：無料

※岐阜大学図書館の開館日時に準じて開館しますので、岐阜大学図書館ホームページ(<https://www.lib.gifu-u.ac.jp>)で確認してお出かけください。

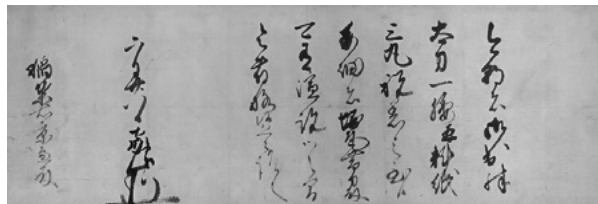


トラ頭骨(所蔵:岐阜大学図書館学術アーカイブズ企画運営室)

新収蔵品紹介

「徳川家康書状」

岐阜県博物館 学芸部 中川 創喜



▲徳川家康書状

昨年度新たに博物館に仲間入りした資料を紹介します。
稲葉貞通に宛てた徳川家康の書状です。貞通の訪問と太刀・紙の贈り物を喜んでいること、堀尾帯刀(吉晴)から話すので詳細は省略することが記されています。

稲葉貞通は「西美濃三人衆」で知られる稲葉一鉄の次男で、美濃国曾根城(大垣市)・八幡城(郡上市)の城主となる人物です。慶長5年(1600)の関ヶ原合戦後は、豊後国臼杵(大分県)へと移り、初代臼杵藩主となります。

書状の日付は6月28日で年号の記載はありませんが、書中に登場する堀尾吉晴が家康と接近した時期から貞通の没年までと考えると、慶長4年～8年(1599～1603)の間に書かれた書状と推定されます。

美濃国にゆかりのある稲葉貞通と天下人となる徳川家康との交流がわかる資料です。

この徳川家康書状は、10月14日(土)から開催する岐阜県歴史資料館との連携企画展「美濃 徳川領国への道」で展示します。収蔵後、初めての公開となりますので、この機会にぜひご覧ください。

岐阜県歴史資料館・博物館連携企画展

「美濃 徳川領国への道」

会場：岐阜県博物館 本館4階 企画展示室

会期：令和5年10月14日(土)～11月26日(日)

(10月)9:00～16:30 (11月)9:30～16:30

※期間中、特別展「出かけよう！0→3,000mの旅」開催

休館日：月曜日

マイミュージアムギャラリー 第4回展示

「島田翠鳳の花鳥画展」

令和5年9月23日(土・祝)～10月29日(日)

岐阜県博物館 学芸部 浅野 伸保

令和5年度の第4回目は、野村千秋さんによる「^{しまだ}島田翠鳳の花鳥画展」を開催します。

美濃市の出身、岐阜市に在住した日本画家・島田翠鳳(1922年～2002年)は^{たけうちせいはう}竹内栖鳳画伯を師と仰ぎ、翠鳳の雅号を受けて花鳥画を得意とした画家です。岐阜県内に現存する島田翠鳳の肉筆画は希少で、四条派の流れを汲む日本画家・島田翠鳳の花鳥画を知る好機として鑑賞していただければ幸いです。

花鳥画展で、優しい目をしたユーモラスな狸の描写や、細やかな筆使いの小鳥、蜜蜂たちのリアルな姿を見つけるなど、四季折々の掛け軸をご家族でお楽しみください。

父、翠鳳より画法を継承した長男、^{しまだこうほう}島田恒鳳(1954～)の色紙も同時に展示いたします。



▲新山小禽之図(しんざんしょうきんのず)

▲翡翠之図(かわせみのず)

図書資料室のお仕事—チラシから見える博物館—

岐阜県博物館 学芸部 千藤 克彦

図書資料室担当として着任して6か月ほど経ちました。毎日、全国の博物館・美術館・資料館等から刊行物や特別展・企画展のチラシ・ポスターなどが届きます。刊行物を受け入れ、登録して配架したり、チラシを棚に並べたり、ポスターを掲示したり…というのが主な仕事になります。

特別展・企画展のチラシを見るとその展示のアイデアやチラシのデザインがとても参考になります。岐阜県内のチラシは3階の本館とマイミュージアム棟にある休憩コーナーに並べています。他県のチラシは、本館4階の図書資料室横の通路の、これまでの図書資料室担当が制作したという、ロッカーを改造したチラシ入れに入れます。150ほど棚があり、チラシを見るにはしゃがみこみ、取り出さないと内容がわからないので、結構大変です。それでも、来館者がチラシ入れの前でしゃがみこんでいる光景を何度も見ているので、結構利用されていると感じます。

6月には、棚に空きがあったチラシ入れでしたが、夏休みが近づくにつれてチラシがどんどん送られてきて、現在は一つの棚に2種類のチラシを入れている箇所がたくさんあります。しかし、8月後半を迎えて展示が終了したチラシが増えてきています。

週に1回チラシの確認をするのですが、チラシの人氣がわかって面白いです。デザインや内容がいいなあと思ったチラシが大量になくなっていると、「やはり」と思い、逆に残っていると「なぜだろう?」と考えたりします。子供を中心に人氣が高い恐竜関係のチラシは思ったより人氣がありません。これは、この館のチラシ入れが、取り出さないと内容がわからないので、子供や子連れ家族から目につかないことがその理由かなと考えています。

10年以上前にも、自然係学芸員としてこの博物館に勤務しましたが、その時とは違った博物館の姿が見えて興味深く仕事しています。

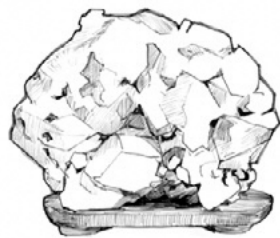


岐阜県博物館&百年公園から文化を紐解く

岐阜県博物館友の会 興 英樹

日本の人口重心がある関市にある岐阜県博物館&百年公園から、広く文化を考えてみたいと思います。

1 博物館の旧の玄関前にさざれ石があります。さざれ石は伊吹山麓から産出され、県の天然記念物に指定されています。このさざれ石は国歌の歌詞にもあるためか、過去に旅先各所でも見つけました。大しめ縄のある出雲大社の鳥居の横、ヤドリギがそばにあった霧島神社の鳥居の横、元伊勢籠神社の参道。そして金比羅神社の復路の参道にも。疲れてうどん屋に飛び込み、讃岐うどんがおいしかったのを覚えています。1600年代の「金比羅祭礼図」にうどんを作っている絵図がありますが、もう少し時代をさかのぼり、うどんが遣唐使の持ち帰った製法であることを考えますと、讃岐（空海!）—唐のルート上に五島列島があります。そこには旧徳山村とは違った「地獄うどん」があります。（現揖斐川町）旧徳山村から移築した古民家で博物館イベントとして地獄うどんをふるまっていたことを懐かしく思い出します。



2 桜とハナミズキが取り持つ日米友好親善

ハナミズキの花は4~5月にかけて咲きます。見ごろは4月中旬~下旬。花だけでなく、晩秋に鮮やかな紅葉が楽しめます。百年公園にはハナミズキが並木になったところがあり、散歩していると季節が楽しめます。1912年、東京市長であった尾崎行雄が、1909年米国大統領タフト氏の夫人が日本の桜を植えたいと思っていることを知り、一度目は失敗、二度目に健全な苗木を3000本送ります。それがアメリカ人に愛されているポトマック河畔の桜です。返礼としてハナミズキが1915年に60本送られてきました。その時の原木の1本が都立園芸高校にあり、2015年キャロライン・ケネディ駐

日大使臨席のもと、高校内で日米友好の記念植樹祭「ハナミズキ百年祭」が行われました。また、2000年にはタフト大統領の孫タフト・オハイオ州知事から「第2世代」のハナミズキが寄贈されています。



岐阜県博物館からのお知らせ

10月～2月の展示のご案内

◆特別展

「出かけよう！ 0→3,000mの旅—植物が彩る物語—」

9月15日(金)～12月3日(日)

※詳細は本誌2ページに紹介してあります。

◆歴史資料館・博物館連携企画展

「美濃 徳川領国への道」

10月14日(土)～11月26日(日)

※詳細は本誌4ページに紹介してあります。

◆博物館・岐阜大学・名古屋大学博物館連携企画展

「おもしろい骨の話—しらべる・つくる・のこす—」

会場は岐阜大学図書館 10月23日(月)～12月6日(水)

※詳細は本誌3ページに紹介してあります。

◆企画展

「美しき鉱物の世界」

1月20日(土)～3月17日(日)

◆マイミュージアムギャラリーの展示

「島田翠鳳の花鳥画展」

9月23日(土・祝)～10月29日(日)

※詳細は本誌4ページに紹介してあります。

「一針一針願いを込めて 百徳きもの展」

11月11日(土)～1月8日(月・祝)

「廃材がartに変わる 竹・木材のartダンボール工作」

1月20日(土)～3月10日(日)

※博物館展覧会・催事の追加について

歴史資料館・博物館連携企画展「美濃 徳川領国への道」は年間リーフレットには未掲載の企画展です。

※諸事情により変更があることがあります。ホームページ、X（旧ツイッター）またはお電話でご確認ください。

友の会事務局からのお知らせ

★令和5年度後期友の会の主な活動について

- 会 議 ・10月12日(木)秋季理事会
- ・3月9日(土)会長・副会長会議
- ・各種委員会

★七草がゆを食べよう

令和6年1月7日予定

★探訪の旅について

○探訪の旅

宿泊探訪の旅 「復元された鶴丸城御楼門と神話の里 高千穂を訪ねる旅」 12月5日(火)～7日(木)

★図録の刊行について

- ①『岐阜県博物館所蔵 赤羽刀図録』4月
- ②特別展『岐阜の祭り みんなのこころ粹』7月
- ③特別展「出かけよう！ 0→3,000mの旅—植物が彩る物語—」9月



※博物館の展示をお家に持って帰りませんか？見直すと新たな発見がきっとあります。会員の皆さまは一割引でご購入いただけます。「販売中の図録」については岐阜県博物館HP中の友の会のページにあるPDFファイルをご参照ください。

★ミュージアム・ショップ販売書籍について

『NHK大河ドラマ歴史ハンドブック どうする家康 徹底解説・関ヶ原の戦い編』(NHK出版)を入荷しました。岐阜県博物館学芸部職員も執筆しています。

★岐阜県博物館の催事について

博物館の展覧会や催事を知人や友人に紹介するためチラシやポスターを希望される方は友の会事務局までお問い合わせください。

★会報への寄稿について

会報への寄稿をお待ちしています。